# 平成26年度
# 静岡大学　職員海外研修報告書

派遣期間：平成27年1月5日（月）～1月11日（日）

研 修 先　：タイ（タマサート大学）

研 修 者　：小林　靖子（財務施設部財務課出納係）
漆畑　光介（人文社会科学部学務係）
河邉　良美（工学部教務係）
髙村　知世（学術情報部研究協力課研究支援係）

# 静岡大学職員海外研修制度

目的:

本学における国際交流の推進、国際社会への貢献等、国際化する社会に対応できる優秀な人材を育成するため、本学の職員を海外の大学に派遣し、諸外国における大学の教育・研究の支援体制、事務組織等について研修させることを目的とする。併せて静岡大学が新たに展開する国際戦略「アジアブリッジプログラム」の実施による優秀な留学生（受入・派遣）を積極的に推進するため当該協定校の担当教職員との意見交換を行うなどグローバル化に関する意識の醸成を図る。

# 報告内容

・人事交流

・大学施設

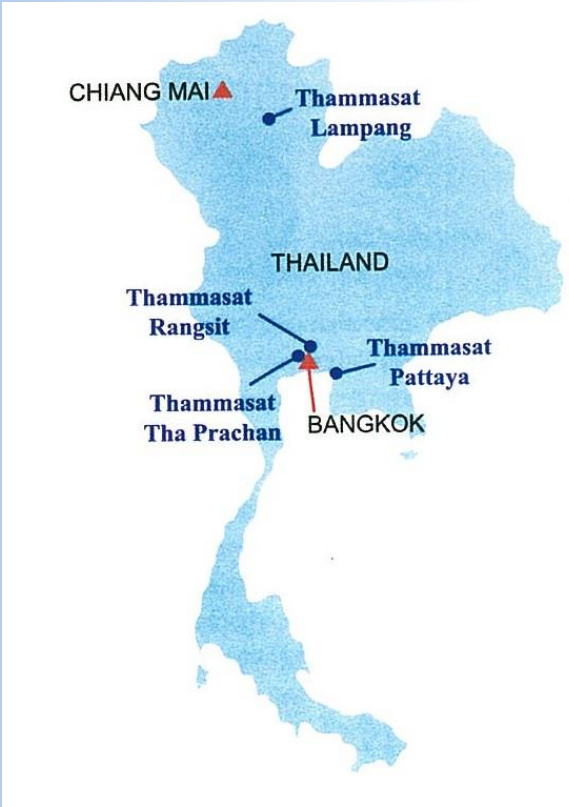
・質疑応答

・留学生オリエンテーション

# Shizuoka Staff Training Exchange Program
# 5th -10th January 2015
# Thammasat University, Tha Prachan and Rangsit campus

| | | |
|---|---|---|
| 5th January, 2015 | 3.40 pm. | Arrive at Suvannabhumi airport |
| 6th January, 2015<br>(Rangsit Campus) | 8.00 am.<br>9.00 am.<br>9.00–10.00 am.<br><br>10.00–11.30 am.<br>11.30 am.–1.00 pm.<br>1.00–4.00 pm.<br>4.30 pm.<br>6.00 pm. | Pick up at lobby Amarin Mansion<br>Arrive at Thammasat Rangsit campus<br>Discussion withAsst.Dr.SupredeeRittironk(Assistant to the rector for International Affairs)<br>At International Affairs meeting room, Rangsit<br>Campus Tour (Rangsit)<br>Lunch (hosted by IEAS)<br>Visit Institute of East Asian Studies<br>Back to Tha Prachan<br>Arrive at Amarin mansion |
| 7th January, 2015<br>(Tha Prachan Campus) | 8.30 am.<br>9.00 –9.30 am.<br>9.30–10.30 am.<br>10.30–11.30 am.<br>11.30 am. – 12.30 pm.<br>12.30 – 3.30 pm.<br>3.30 – 4.30 pm. | Pick up at lobby Amarin mansion<br>Campus Tour (Tha Prachan)<br>Visit PridiBanomyong International College<br>Visit PridiBanomyong library<br>Lunch on your own at student canteen<br>Rattanakosin Exhibition Hall<br>Wat Arun (Temple of Dawn) and back to Amarin on your own |
| 8th January, 2015 (ThaPrachan Campus) | 8.30 am.<br>9.00 am. – 3.00 pm.<br>3.00 – 5.00 pm.<br>5.00 – 9.30 pm. | Pick up at lobby Amarin mansion<br>Observe Orientation Day event (all day)<br>Back to Amarin, Free time<br>Departure from Amarin on your own to have dinner on Riverside Cruise (hosted by OIA) |
| 9th January, 2015 (Cultural Tour) | 9.00 am.<br>9.30 – 12.00 am.<br>12.00 – 1.00 pm.<br>1.00 – 3.00 pm.<br>3.00–4.00 pm. | Pick up at lobby Amarin mansion<br>Grand Palace (Dress properly)<br>Lunch<br>Museum Siam<br>Wat Pho (back to Amarin on your own) |
| 10th January, 2015 (Free Day) | 5.30 pm. | Departure from Amarin mansion to Suvannabhumi airport |

# タマサート大学について




1934年6月27日にPridi Banomyongによって創立されたタマサート大学（旧称：タマサート・レーカーン大学）は、タイで2番目に古い歴史を持つ大学であり、2014年に創立80周年を迎えている。

パリ大学で法学と政治学を学び絶対王政を打倒した人民党出身の創立者の影響からか、1976年の10月学生決起の舞台になる等民主主義教育が理念となっている。1952年に現在のタマサート大学に名前を変え、1986年10代目学長Puey Ungphakornの時にRangsit Campusの創設と共に理学部も併設している。1995年にタイ東部に位置するPattaya Campus、翌1996年にはタイ北部に位置するLampang Campusが創設されている。

2008年8月に静岡大学と大学間協定を締結している。

学部数：17学部

**Academic Calendar**

タマサート大学では3種類の学年暦がある。

**Thai Semester System**

| | |
|---|---|
| 1st semester | ６月 － １０月/９月 |
| 2nd semester | １１月 － ２月/３月 |
| Summer | ３月 － ５月 |

**Western Semester System**

| | |
|---|---|
| 1st semester | ８月 － １２月 |
| 2nd semester | １月 － ５月 |
| Summer | ６月 － ７月 |

**Trimester System**

その他特定のプログラムによる3学期制

# 人事交流　（教職員）

## 学長室にて

中央：Somkit学長
左側：Spredee先生（国際担当学長補佐）
右側：Usacharatさん（OIA事務長）
右側2番目：Panyaphatさん（OIAスタッフ）
（タマサート大学HPより）

## IEAS（東アジア研究所）にて

Kitti先生
IEAS（東アジア研究所）所長

左から　Charuponさん（IEAS事務長）
Ornprapaさん、Phakpenさん、（理工学部講師）
Chatnarinさん（企画戦略課課長補佐）

## OIA会議室にて

Spredee先生（国際担当学長補佐）

# 人事交流　（教職員）

PBIC
（Pridi Banomyong International College)にて

中央　Niyom 学部長
右から2番目Anuraj副学部長（学務系）
右Ken Witoonchartさん（タイ学講師）
左Jirapornさん（タイス学コーディネーター）
International student向けのプログラムについて
ご説明いただいた。

OIAオフィスにて
中央　Nitinant副学長（国際業務担当）

図書館にて
Benjaminさん（図書館司書）に館内および図書館システムについて
案内していただいた。
図書館館受付画面に歓迎する表示が流れていた。

# 人事交流　（学生）

Rangsitキャンパスツアー（６日）

右から
ThaNatさん（商学部）
ChaNitTraさん（商学部）

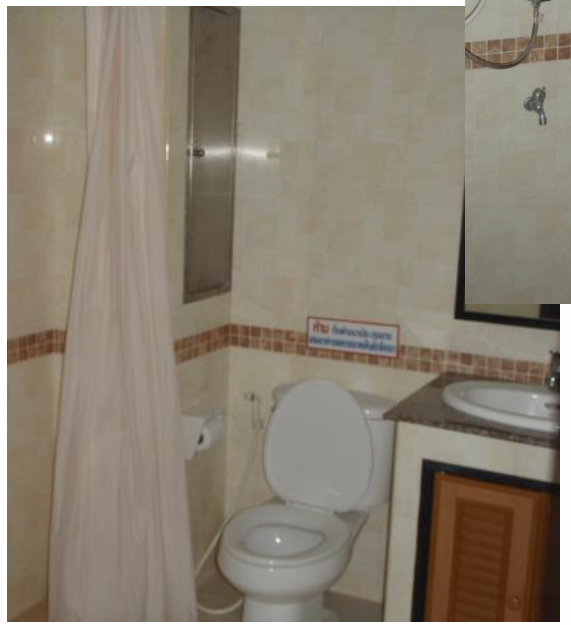
ThaPrachanキャンパスツアー（７日）

右から
PreeChaYaさん（政治学部）
NanThaNatさん（法学部）

Grand Palace, Museum Siam見学（９日）

右から
Varanyuさん（静岡大学留学予定）
Natthakarnさん（大阪大学留学予定）
Supapornさん（静岡大学留学予定）
　全員教養学部・日本語専攻

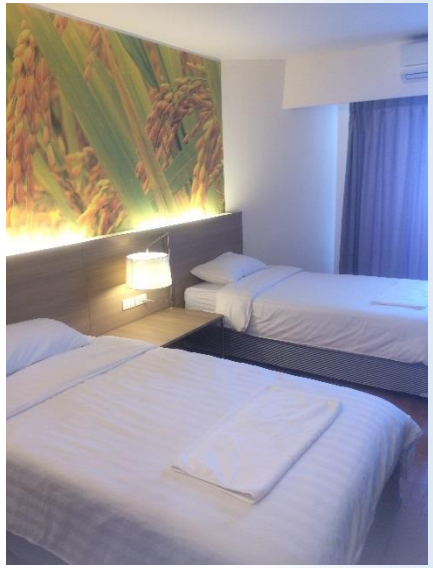
# キャンパスツアーで訪れた施設について



# Rangsit Campus

１月６日（火）に訪問した、タマサート大学で一番広大なメインキャンパス。本部のあるTha Prachan Campusから40km程度郊外にあり、車で約40分かかった。工学部、医学部といった理系分野の学部と職員用宿舎、学生寮、附属病院、附属図書館、ラーニングセンター、アジアスポーツ大会開催時に建築されたメインスタジアム、アクアティックスポーツセンター等の施設がある。

アジアスポーツ大会開催時に建てられた宿泊施設。タイ政府からタマサート大学に譲渡された。



見学した部屋はツインルームで、バス・シャワー付き。ベランダからは左写真のように、寮や宿泊施設が望める。

キャンパスツアーで使用したバス。
タマサート大学のシンボル的な塔のイラストが描かれている。

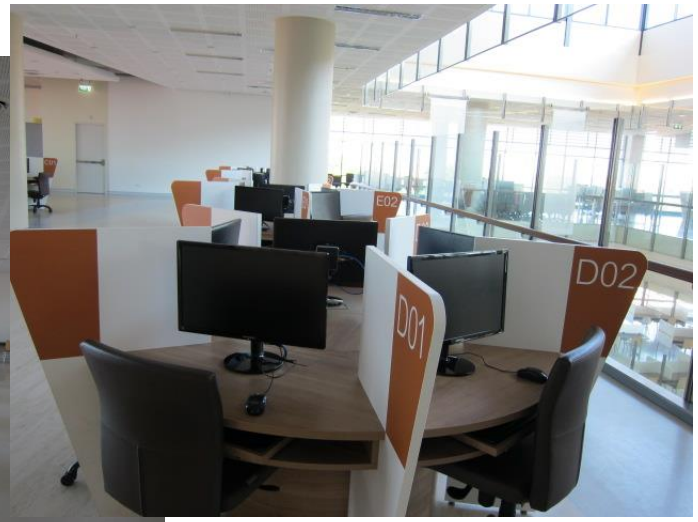
附属病院。写真は玄関部分だけだが、この左隣に病院がある。吹き抜けで開放感のある受付だった。

病院の１階部分だけ案内してもらった。ガラス張りだからか、患者がいなければ空港かショッピングモールのよう。

ラーニングセンターの概観。浜松キャンパスの附属図書館の概観に少し似ているがカラフル。

中は、吹き抜けでガラス張りなので明るく広々としたイメージ。

天井や、一歩裏に回ると配管がむき出し。




PC用と自習用のスペース。席取禁止の表示があった。

ミニシアタールームや、クッションだけが置かれた部屋も完備されていた。

ラーニングセンターから図書館へ移動する際に通過するチェックポイント

図書のセルフチェック（返却）ブース

黒い台の上に本を置くだけで返却手続ができる。

悠々亭という茶室

東アジア研究所内の宿泊施設等の壁に、洪水被害の跡が残っていた。

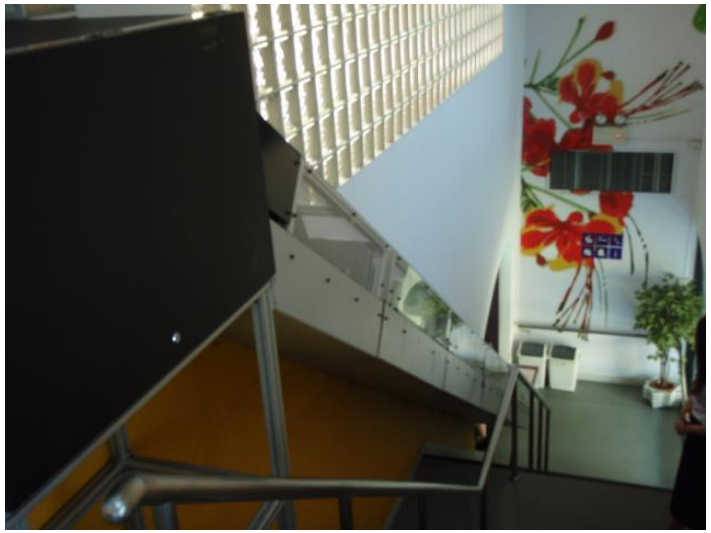
東アジア研究所内の宿泊施設なのに、中は西洋風だった。洪水被害のため、家具類は新しいものが多かった。

# Tha Prachan Campus

本部を擁するキャンパス。

バンコク市内の王宮隣という立地からか、キャンパスの周りは賑わいを見せており、観光客の通り抜けも多いとのこと。Rangsit Campusと比べると敷地は狭いが歴史が感じられる古い建物が多かった。

チャオプラヤ川を眺めるタイ民主主義の父であり創始者のPridi Banomyong



タイでは珍しいという、地下に設置された図書館。

階段横に、本の返却用スロープがある。合理的ではあるが、本が傷みそうである。

図書館の中にあったお祈り用の部屋。

図書館の中には、シアタールームもあった。

# 質疑応答1

（質疑応答の風景）

日時：1月6日（火）14：00～16：00
場所：東アジア研究所2階会議室
タマサート大学の主な出席者（5ページの右側の写真参照）
Kitti Prasirtsuk 先生　東アジア研究所長
Ornprapa Anugoolprasert 先生　理工学部講師
Phakpen Poomipan先生　理工学部講師
Chatnarin Metheekul M.D.先生　継続教育社会サービス研究所戦略企画副長
Charuporn Wongbanditさん　東アジア研究所事務長

事前に送付した質問事項に回答する形式でミーティングが開催された。質問事項は今回の研修参加者が、静岡大学での自分自身の仕事内容を踏まえ、海外の大学ではどのような状況であるか、興味のある点について列挙した。

タイの大学全般にかかるものではなく、タマサート大学での状況として回答していただいた。

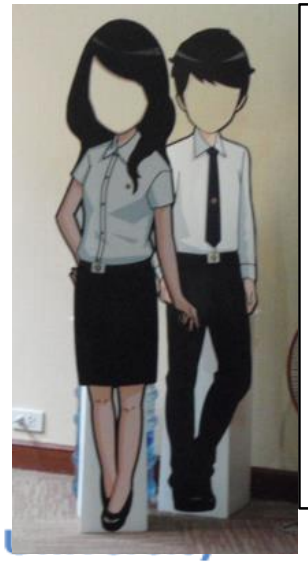
理工学部の Anugoolprasert 先生、Poomipan先生および継続教育社会サービス研究所Metheekul先生から主に回答をいただいたが、大学全体として回答が難しい点は省略した。

全て英語でミーティングが行われ、Anugoolprasert 先生およびPoomipan先生から日本語で補足説明をいただいたたものの、本研修参加者の英語力不足により、英語が聞き取れない部分が多く、国際交流では英語の必要性を感じた。

ここでは主に、日本の大学あるいは静岡大学と特に異なる点について説明する。

## 1.制服

（写真撮影用制服パネル）



＜男子＞
白シャツ（すそをズボンに入れて袖は折らない）
ズボンは黒か濃紺
ベルトはタマサート大のバックルがついたもの
靴は黒色　ネクタイはタマサート大のもの
＜女子＞
白シャツ（ボタンはタマサート大のもの）
スカートは黒か濃紺
靴は黒色　左胸にタマサート大のピン

# 質疑応答2

## 2.授業料

各部局によって定められている。ここでは多くの部局で採用されているものを報告する。

1学期分（タマサート大学では年間2学期ある）

| | |
|---|---|
| 授業料 | 1 単位×2,500Baht |
| 教育費 | 15,000 Baht |
| 保健サービス費 | 125 Baht |
| スポーツ施設費 | 200 Baht |
| 学生活動費 | 150 Baht |
| 図書館費 | 750 Baht |
| 事故のための保険費 | 110 Baht |
| 大学支援費 | |
| タイの学生 | 450 Baht |
| タイ以外の学生 | 5,000 Baht |
| ネットワークサービス費 | 300 Baht |
| 大学開発費 | 3,600 Baht |
| 学籍登録費（新入生のみ） | 400 Baht |
| 文書登録費（新入生のみ） | 200 Baht |

タイの学生であれば24単位で、おおよそ85,000Bahtかかる。
1Baht≒3.5円　85,000Baht×3.5＝297,500円
タイ人の平均月収約30,000Baht

## 3.履修制度

各部局によって定められている。ここでは多くの部局で採用されているものを報告する。

①卒業までの単位数（学部）
Total 130 ～140単位 くらい
全学教育科目30単位程度
コアコース科目30～100単位程度
メジャーコース科目0～30単位程度
選択科目0～20単位程度
自由科目6単位程度

②成績評価
A 4.0 Excellent
B+3.5 －
B 3.0 Good
C+2.5 －
C2.0 Fair
D+1.5 －
D1.0Minimum
F0.0 Fail

③成績不振学生への対応
学生は常に累積GPAを2.0以上にしなければならない。
2.0を下回ると「警告」が与えられる。
2期連続「警告」だと「保護観察」となる。
次の学期で2.0を下回ると「除籍」となる。
静岡大学でのような成績不振学生への指導などは特にしていない。

④除籍退学の学生数
成績不振だけが理由ではないが、毎年10,000人ほどの学生が入学し、8,000人ほどの学生が卒業しているため、2,000人ほどが退学や除籍をしている。

# 質疑応答3

## 4.教職員

＜教職員数 ＞　6,458名（2010年）
教員　1,742名　26.98%
教育支援職員　1,348名　20.87%
事務職員　2,327名　36.03%
従業員　1,041名　16.12%

＜女性が働きやすい環境の整備＞
産休は3ヶ月。
出産前は特になし。有給で休む。タイでは祖父母が孫の面倒見てくれることがおおい。

＜事務職員の比率＞
男1：女2
正規1：非正規2

## 5.学歴社会について

タイは学歴社会であり、多くの学生が修士課程や博士課程に進学したいと考えている（進学率は不明）。高卒と大卒、学士と修士ではそれぞれ収入が全く違ってくる。

＜個人的な感想＞
今回の研修をとおして、対応してくれた事務職員は全員女性であった。農業や製造業の多いタイにおいて、大学で働ける人はおそらくごく限られた人たちである。全員流暢な英語を話すところを見ると、おそらく英語圏への留学など高い教育を受けているのではないかと思う。英語に加えてさらに日本語や中国語を勉強してる職員もいた。とても優秀な事務職員がそろっていたと思う。
たしかに、大学を卒業するまでに多額の費用がかかり、ごく限られた人しか学位を修得できない格差社会である側面もあるかもしれないが、学位の修得には男女の区別がなく、学位の修得が社会での成功と結びつくのであれば、それがタマサート大学での優秀な女性職員が多い理由の一つであり、保育施設等の整備を特にとる必要がない文化とあいまって、タイでの女性の社会進出はかなり進んでいるように感じた。

# 留学生オリエンテーション　―1.概要―

## ■概要

これからインターナショナルプログラムでタマサート大学に留学する外国人留学生のためのオリエンテーション。
今回の研修プログラムの日程はこのオリエンテーションの見学を中心にアレンジされており、滞在中のメインイベントとも言える。
実際に出席してみて、規模や人員の配置などから、OIAが教職員総出で行うような一大イベントであることが伺えた。

◆日時　1月8日（木）9時～15時頃
◆場所　ThaPrachanキャンパス
◆主催　タマサート大学 OIA （＝Office of International Affairs ）
◆内容　タイの国の文化・生活習慣、タマサート大学の学生としての心得、
滞在ビザ関係の手続き案内、留学生向けイベントの紹介、
初級タイ語講座　等

▲このイベントの見学中も、タマサート大学の学生がチューターとして付き添ってくれ、随時、疑問点や気になった点等を尋ねることができた。学生は日本語を勉強中で、来年から日本に留学する予定とのこと。

▲参加者受付
受付簿は出身国（または地域）ごとに分かれていた。

▲会場内の様子
およそ120名程度は収容できそうな広さ。

▲参加者
欧米系の留学生が多い。日本からの留学生は2名だったが、今回は例年に比べ少なく、例年は20名程度いるとのこと。

# 留学生オリエンテーション　―2.特筆事項―

## ■イベント全体における特筆事項

以下の点が興味深く、静岡大学（あるいは日本国内の大学）が行う一般的な学内イベント等と比較して、相違があるように思われた。ただ、タマサート大学が特別というわけではなく、海外の大学においては一般的であるような点もあるかもしれない。

### 会場の装飾

カラフルな風船等を使い、会場はまるでパーティーのように装飾されていた。

### 進行

時折ジョークも織り交ぜ、クイズ番組のような明るく楽しい雰囲気で、堅苦しさがなかった。

### 食事の提供

軽食および別途ビュッフェ形式の昼食が参加者に提供された。

▲軽食（11時頃）

▲昼食ビュッフェ（12時頃）

### スタッフシャツ

当日は、説明者の教員等を除く事務系スタッフ全員が、OIAの名前入りのポロシャツを着用していた。（私達も前日に同じポロシャツを1着ずつ頂戴し、同様に着用して参加した。）

# 留学生オリエンテーション　―3.内容詳細―

## ■オリエンテーションの内容詳細

全体の司会進行及び補足説明をOIAのSpredee先生が行ったほか、各担当者の説明があった。

### 1）タイの国の文化・生活習慣

欧米人の教員が文化の違い等を説明した。（学校であってもトイレに紙がないことがあるので、外出の際ティッシュを忘れない 等）

### 2）滞在ビザ関係の手続き案内

担当者がビザの種類、有効期限、延長手続き、再入国等について詳細に説明した。担当者は入国管理局等の職員ではなく、大学職員ということだった。このイベント中で最も参加者の関心が高かった部分であり、参加者から次々に質問が挙がっていた。
なお、後日国際交流課に確認したところ、静岡大学では留学生向けにビザ関係の案内は行っておらず、この点については対応に差がある。

### 3）タマサート大学学生としての心得・注意事項

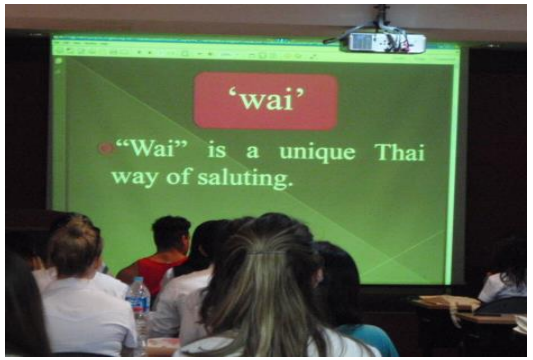
留学生としての生活態度や観光客との違いの説明（タイの社会において大学生は尊重される　等）、外国人が被害にあいやすい事件（タクシーメーターの細工 等）に関する情報提供があった。

### 4）留学生向けイベントの紹介・参加受付

OIAでは留学生向けに様々なイベント・アクティビティを頻繁に行っており、今回は「ワットポー・王宮見学ツアー（1/9開催）」、「タイ料理教室（1/17開催）」の募集をしていた。参加希望者は、申込用紙に氏名等を記入する。

### 5）初級タイ語講座

担当教員が英語にて講義を行った。簡単な文法から、自己紹介の仕方、タイ料理の名称等を覚えることができる内容。



所感（小林）

研修を振り返ってみると、タマサート大学で出会った全ての人達の心配りと英会話能力が素晴らしいことに驚き、タマサート大学の一員であることに誇りを持っているのが伝わってくる毎日でした。また、学生がサポートしてくれたおかげで、職員同士よりもカジュアルに交流できたことも貴重な体験でした。

今回の研修は通訳無しで実施されましたが、元々英語の素養がある人ならかなり良い経験になるであろう反面、基礎能力がない私にとっては意思疎通がままならず、悔しい思いをすることも多かったです。また、訪問先決定から出発まで2ヶ月程しかなかったこともあり、タマサート大学についての知識が浅いままの出発となってしまったことも、少し残念でした。

今の部署では英語を使う機会は無さそうですが、今後のためにも少しずつ英語力を高められればと思っています。

今回の研修にお力添えいただきました職員課及び国際交流課を始めとする関係部署の皆様と、タマサート大学で会えた皆様、そして頼りない私を色々な場面で優しく助けてくれた同行者の3名に、心から感謝いたします。

所感（漆畑）

この研修の質疑応答で私がもっとも知りたかったのは、教務的なルールと職員の職場環境の差であった。私は日本の大学の形しか知らず、これから静岡大学が国際化を目指すにあたり、タマサート大学はその一例として、より詳しい情報が聞き出せれば良いと考えていた。

しかしながら、タマサート大学側の対応してくれた全教職員学生が流暢な英語を操っていたのにもかかわらず、研修者側の、いや私の英語力が全く追いついていなかった。それが今回の、この報告書の形に至っている。

今回の海外研修では、空港の送り迎え、宿泊、食事、キャンパスツアー、各部局との話し合いの機会、案内の学生など、タマサート大学には最初から最後まで全て気配りがなされており、かえって恐縮してしまうほどであった。英語を解さない私にも根気よく声をかけてくれた。研修最終日に、タマサート大学の学生をこれからもよろしくと言われたこともあるが、タイでの恩を返せるよう、タイとの交流はもちろん、静岡大学に在学中あるいはこれから来る学生が快適な日本での生活をおくれるよう積極的に何かしていきたい。このような気持ちはおそらく他の外国に対する気持ちにも発展可能で、私がこのような気持ちになれたことは反省することの多い本研修の中でよかった点だと思う。

所感（河邉）

OIAスタッフの皆さまには、空港の送迎から始まり、宿泊手配から訪問先手配などを決め細やかに配慮していただき、滞在中には困ることが何一つなく大変感謝しております。

また、職員課および国際交流課の皆様にも、派遣が決定してからの短期間で各種手続き等にご尽力いただき、誠にありがとうございました。

今回一緒に参加した3名の皆様には、何から何まで助けていただき、無事に研修を終えることができ、大変感謝しております。普段は交流のない部署の方との交流も大変勉強になりました。私にもう少し英語力や大学の知識等があれば、お互いの理解がより深まったかと思うのが残念でしたので、今後、英語力や知識を深められるよう努力していきたいと思います。

このようなとても良い機会をいただき、誠にありがとうございました。

所感（高村）

この研修を通して、私がまず第一に痛感したのは、対応者（教員・職員・学生）のコミュニケーション能力が高いという点でした。タマサート大学の各部署・施設を回っても、英語でコミュニケーションできない人物はいないし、沈黙しがちで英語もたどたどしい私達に対して、常に色々と話しかけて下さいました。海外からのゲストの来訪に際し、私の場合はかなり慌てふためくと思いますし、そこに能力としても、意識の面でも、決定的な違いを感じました。

今回の研修は基本的に通訳なしで行われましたが、研修の主目的が異文化交流や職員のコミュニケーション能力を養成することであれば、通訳がいないことは、職員にとってかなり刺激になり、意識改革としても言語力・コミュニケーション能力の向上においても効果的だろうと思います。ただ反面、訪問先の大学等について深く理解することを重視するのであれば、通訳の付き添いがあったほうが、情報収集の点は効率的に行うことができるように思われました。

また、今回の研修では、毎日異なる学生がガイドとして付き添ってくれたこともとても印象的で、タイの国や大学に関することから食事のおすすめメニューまで、なんでも気軽に教えてくれ、滞在中非常に助かりました。大学の教職員だけでなく学生とも交流の機会を持つことができ、現地学生の雰囲気を感じられた点も、今回ならではの貴重な体験であったと思います。